



稲作情報第4号

(水管理、雑草対策、病害虫対策)

JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・いしかわ地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

令和8年5月20日～

令和8年6月24日

1 気象庁発表 東北地方発表 1ヶ月予報 (5月16日～6月15日までの見通し)

天候予報(5月14日発表)によると、天気は数日の周期で変わる見込みです。平均気温は平年より高い見込みです。降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。

2 藻類・ガスわき

(1) 藻類・表層はく離対策

- 田植後に好天が続く、気温の上昇に伴い藻類が多く発生することがあります。
- 多発すると水温・地温の低下や苗のなぎ倒しによる初期生育の抑制や除草剤の拡散阻害、直播栽培では苗立不良の原因となることがあります。
- 藻類が見られた場合、表1を参考に対策を講じましょう。



藻類による苗のなぎ倒し

表1 藻類・表層はく離対策

	対策1 発生予防	対策2 水管理	対策3 発生した場合の薬剤防除
藻類	登録のある除草剤を施用する	ほ場の水を入れ替える	モゲトン粒剤を使用する
表層剥離	同上	排水し、2～3日後に入水する	同上

(2) ガスわき

- 湛水後、高温が続くと、水田内の稲わら等が急速に分解し、稲の根にとって有害なガス(ガスわき)が発生します。
- ガスわきにより、根腐れを起こし、稲の生育停滞や分けつの発生の遅れが出る場合があります。
- ガスわきが確認された場合は、落水をしてガスを抜き、根に酸素を供給しましょう。
- 葉色が淡くなりますが、上記対応により、根の活力が回復すると、肥料成分を吸収できるようになるため、追肥をしなくても葉色が出てきます。
- ガスわきの影響で葉色が淡くなった稲に窒素分を追肥すると症状が悪化する恐れがあるため、追肥はしないでください。
- 秋耕をしない水田で起こりやすいため、収穫後は秋耕を行い、翌年の異常還元を抑えましょう。



ガスわきの写真

3 中干し

(1) 中干しの効果

- 水を切ることで、稲の過剰な分けつの発生を抑え、土へ酸素を供給し、根の健全化につながります。
- 田面が固くなるため、倒伏が少なくなり、秋の収穫作業がスムーズになります。

(2) 中干しの時期

- 始める目安は、コシヒカリの場合㎡当たりの茎数が400本を超えた頃(例年6月20日前後)です(表2)。
- 幼穂形成始期までには中干しを終わらせましょう(表3)。

(3) 溝切り

- 中干し初期に溝切りをすることで、以降の水管理が楽になります。
- 枕地を一周切り、溝同士を連結して、水尻に水が抜けるように溝切りを行いましょう。

表2 中干し開始の1株あたり茎数の目安

目標茎数(本/㎡)	400			450		
品種	コシヒカリ等			ひとめぼれ等		
坪あたり株数(株)	60	50	45	60	50	45
1株あたり茎数(本)	22	26	27	25	30	33

※目安のため、栽培法等により異なります。

表3 幼穂形成始期の目安

	品種	幼穂形成始期
平坦部	天のつぶ	7/9～7/14 頃
	ひとめぼれ	7/10～7/15 頃
	コシヒカリ	7/15～7/20 頃
山間部	チヨニシキ	7/13～7/18 頃
	里山のつぶ	7/7～7/12 頃

4 一発除草剤散布後の残草対策

- 除草剤処理後、除草剤の施用時期や水管理等により残草がみられる場合があります。
- 草種に応じた除草剤散布を実施しましょう(表4)。
- 水田内のノビエや、ホタルイ等のカヤツリグサ科等の雑草は斑点米カメムシの発生源となるため、水田内の除草を徹底しましょう。

表4 草種とその対策(移植栽培)

草種	除草剤
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤、ヒエクリーン1キロ粒剤
ノビエ+広葉雑草(ホタルイ、オモダカ、クログワイ等)	アトトリ1キロ粒剤、レプラス1キロ粒剤
広葉雑草(ホタルイ、オモダカ、クログワイ等)	バサグラン液剤(ナトリウム塩)、バiscoop1キロ粒剤

5 虫害対策

(1) イネドロオウムシ(イネクビホソハムシ)

- 幼虫時に葉を食害し、**6月から7月**にかけて年1回出現します。
- 箱処理剤による防除が基本ですが、株あたり10頭で5%程度の減収となることから、右の写真のような幼虫が多発する場合は薬剤防除を行いましょう(表5)。



イネドロオウムシの幼虫

(2) イネミズゾウムシ

- 成虫で越冬し、越冬後の4月から活動を始め、
- 田植え後の**5月上旬~6月上旬**に水田に侵入し、葉を食害し、被害が大きいと減収に至ります。
- 気温が高い日が続くと成虫の本田への侵入時期が早まります。
- 箱処理剤による防除が基本ですが、移植後10日頃に100株当たり成虫が40頭以上のほ場では、薬剤防除が必要となります(表5)。



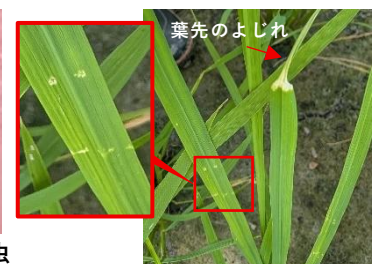
イネミズゾウムシの成虫

(3) イネクロカメムシ

- 石川町や須賀川市東部**で発生が確認されています。
- イネの株元に生息し、**6月~7月頃**に茎葉を加害します。加害されると葉先がよじれ、右の写真のような加害跡が見られます。
- 激しい加害を受けると、分けつの抑制や白穂の発生により減収に至ります。
- 箱処理剤による防除が基本ですが、発生が確認された場合、薬剤防除を行いましょう(表5)。



イネクロカメムシの成虫



加害跡と葉先のよじれ

表5 害虫に対する防除薬剤

害虫名	登録のある薬剤名
イネドロオウムシ	トレボン粒剤、なげこみトレボン、スミチオン乳剤
イネミズゾウムシ	トレボン粒剤、なげこみトレボン
イネクロカメムシ	スミチオン乳剤、スタークル液剤10

県中農林事務所須賀川農業普及所 電話(0248)-75-2180
 ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください
 次回の発行予定日は令和8年6月24日(水)です。

本資料は、5月14日現在の農薬登録情報を基に作成しています。農薬使用の際は、最新情報を確認願います。